

土岐市駅周辺まちづくり基本構想（案）に対するパブリックコメント

No	意見（要約）	市の考え
1	歩道がある道路が少なすぎる。駅周辺は市の顔となるため、中途半端なものではなく、先行投資を行う必要がある。	歩道については安心安全なまちづくりにも必要であると考えておりますが、拡幅には居住者への影響や多額の費用が必要となることから十分な検討が必要であると考えます。
	ゆのみの里広場について、一時的なものならまだしも、あの状態が長年あるのは疑問である。	ゆのみの里広場について、本構想の中では具体的な活用方法を示していませんが、今後構想を具体化するための基本計画を策定していく過程の中で活用方法等について検討していきたいと考えています。
	他自治体から移住及び定住したくなるまちになる要素はかなりあると思われる。北口改札を含めた駅の再整備、道路整備、マンション誘致、ホテル誘致など今まで進んでいなかったことを中途半端なもので終わらず、実行していただきたい。	構想の策定にあたり、令和5年度にまちなか居住のポテンシャル調査を行い、マンション等ディベロッパーにも調査を行いました。現在の建築費高騰化において土岐市でのマンション建設は難しいとの回答がありました。土岐市の実情に応じた移住定住対策の検討を進めていきます。 その他駅の再整備やホテル誘致等については、本構想では位置付けておりません。
2	駅前のロータリーが使用されていないため、週末にロータリーで農家や陶器商・窯元によるフリーマーケットを開催してはどうか。露天商やキッチンカーも参加すれば若者も集まるのではないか。移動については市役所駐車場からシャトルバスで往復するなど。	今後策定する基本計画の中で、駅前のロータリーに関わらず、賑わいづくりとして行われるイベント等の補助・支援制度について検討していきます。また、イベントの実施主体となるまちづくりの担い手の育成が必要であると考えています。
3	駅前のタクシーを増便する。カフェやスーパーなどタクシーやバスの待ち場を増やす。飲食店や薬局を新設する。	今後策定する基本計画の中で、民間事業者が駅周辺に出店しやすいような補助・支援制度について検討していきます。
	駅を建て替える。	駅の建て替えについては、本構想では位置付けておりません。
4	市民意識調査における市の36の施策の満足度・重要度について、他の項目が包括的であるのに対して、「土岐市駅周辺の整備」はピンポイントであり、他の項目と次元を合わせて「都市開発」などとすべきではないか。世論調査は質問の仕方によって結果が変わると言われており、誘導的な設問や誤解されるような設問は避けた方が良い。	これまでの市民意識調査結果の推移等を踏まえた上で、いただいた意見については今後の市民意識調査の参考とさせていただきます。

土岐市駅周辺まちづくり基本構想（案）に対するパブリックコメント

No	意見（要約）	市の考え
	市民意識調査を読む限り市民が望むのは「土岐市駅周辺の整備」であって「土岐市駅周辺まちづくり」とは異なるものではないか。市として「土岐市駅周辺まちづくり」を進めたいというのは構わないが、市民意識調査を拡大解釈してあたかも市民が「土岐市駅周辺まちづくり」を望んでいるがごとく言うのは違うのではないか。	市民意識調査の自由記述では、駅周辺について、整備だけでなく、賑わいづくりや活性化の意見も多数いただいております、それらを踏まえて「まちづくり」としています。また、市民意識調査以外にも、市民ワークショップ等で意見やニーズを伺い、本構想を策定しています。
5	どこかの企画会社の企画書をそのまま掲載しているようで読みづらく、市民に理解してもらおうという気概を感じられない。市民向けに要点をピックアップし、コンパクトにリーフレット程度のものを作った方が広報としては有効だと思う。 計画をイメージしてもらうために生成A Iで現在から10年後はどう変わるのか紹介動画を作成できないか。計画に対するイメージが沸けば関心を持つ人も増えるのではないか。	構想を策定し、公表する際には概要版として要点をまとめたリーフレットを作成します。 関心を持つ人を増やす必要性は感じておりますが、動画については制作の予定はありません。
6	まちづくりは、ハード面とソフト面が両輪となって初めて機能するものと考ええる。基本構想に記載されている方向性は、基盤整備のハード面として理解できるものの、それを活かすための「人（市民・行政職員）」の意識変革が不可欠であるが、構想にはソフト面への具体的な踏み込みが不足している。ハードの整備だけでは、地域資源を活かしきれず、新たな施設も活用されないまま終わるリスクがあると危惧している。これまでのまちづくりを振り返っても、現場や行政側の「関わり方」や「本気度」が市民に伝わらなければ、取り組み全体の動力は得られない。 今後は、一部の団体に限定されない広く多様な市民の参加を促す仕組みや姿勢が求められ、ソフト面についても、「誰が」「どのように関わるのか」といった明確な方針と具体的な実践を伴う構想にしていきたい。	まちづくりはハードだけでなく、ソフト面の取り組み、特にまちづくりの担い手を確保・育成していくことが必要であると考えています。 今後、市民参加を促す仕組みとして担い手の確保等のため、まちづくりに関わる人や団体が相互連携、協働できるような場作り（プラットフォーム）を進めていきたいと考えています。

土岐市駅周辺まちづくり基本構想（案）に対するパブリックコメント

No	意見（要約）	市の考え
7	鉄道は大事な交通手段であり、駅はその中心、その周辺の開発はとても大切なことである。車を使えばどこでも行けるが、車に乗れなくなっても大丈夫なまちづくりをお願いしたい。土岐市には駅から離れたところに優れた施設や自然があり、高齡者の増える現在、自家用車から公共交通機関へのシフトを目指していただきたい。	駅周辺は交通の要所であり、公共交通の確保は重点施策に位置付けられます。公共交通については、「土岐市地域公共交通計画」の中で検討を進めていきます。
	森や林の匂いを醸し出す緑地帯を土岐市駅前に希望する。そこに、こどもや高齡者等だれもが集える木造の建物や安価な宿泊設備があると良い。	緑地帯については、本構想の④まちなか交流軸の中で、沿道緑化やコミュニティガーデンの整備・活用として位置付けています。また、だれもが集える場づくりについては、①多様な育みのゾーンの中で、BASE（居場所）の設置・活用として位置付けています。
	電動車椅子やシニアカーなどが、もっと利用しやすくなるよう道路の整備をお願いしたい。車道と歩道がきちんと分けられ、緩やかな段差とスロープの道路を望む。駅東側は、白線はあるものの、自動車との接近距離が近く危険を感じる。道路の改善はこども等の歩行者だけでなく、運転手にとっても安心になる。	歩道については安心安全なまちづくりにも必要であると考えておりますが、拡幅には居住者への影響や多額の費用が必要となることから十分な検討が必要であると考えます。
	伊野川には灌木や葦が繁っており、水の流れを遮る心配があるが、それが整備されれば、こどもの遊び場として有効ではないか。市民プールがなくなったため、土岐川の場所を限定し、係員を置き、水辺で遊ぶ場所ができないか。こどもに五感を用いて遊び生きる喜びを知ってほしい。	土岐川については、本構想の⑤まちなか水辺軸の中で、川辺の拠点形成や利用促進プログラムづくり・運用として位置付けています。
8	土岐川沿いの河川公園の充実や里山の美化運動、里山環境の保全大切さを感じてもらう運動を。	河川公園については、本構想の⑤まちなか水辺軸の中で、川辺の拠点形成や利用促進プログラムづくり・運用として位置付けています。
	駅前通りの横断歩道の信号機の設置など。	横断歩道の信号機の設置については、本構想では位置付けておりません。
9	大きな施設として、土岐市役所、文化プラザ、土岐市駅、図書館、新博物館があるが、有機的なつながり、利便性に難点がある。図書館の現在地は、水辺を生かすことはできるが、駐車場や防災面でその場所にこだわる理由はな	いただいた意見は、今後の公共施設の整備、再配置の際の参考とさせていただきます。

土岐市駅周辺まちづくり基本構想（案）に対するパブリックコメント

No	意見（要約）	市の考え
	く、市役所や文化プラザと一体化することで利便性が高まる。 構想全体として土岐市らしさという点がありません。文化を作っていくコア施設として公共施設を有機的に結び付けることが大切であり、ひとつの図書館により、住みたくなる街に変わることもある。自然と集客、まちなか交流を促すことは可能であり、駅周辺だけでなく、市内の歴史資産をどう未来に向けて活用されていくか考えていただきたい。	